

第2回西脇小学校校舎基本計画検討委員会議録

- ◇日 時 平成26年5月7日（水） 18:00～20:20
- ◇場 所 西脇小学校 図書室
- ◇出席者 検討委員；足立 裕司、腰原 幹雄、岸本 信子、來住 憲明、前田 博夫、森本 寿文
（敬称略） 藤田 位、近藤 浩介、高瀬 博充、村上 純子、西脇 裕晃
小林 拓郎
- 欠席委員；内橋 実三郎
- 事務局；小西 明美、森脇 達也、池田 正人

- ◇配布資料
- ・西脇小学校校舎基本計画検討委員会（第2回）次第
 - ・資料1 西脇小学校校舎基本計画検討委員会議録
 - ・資料2 西脇小学校校舎基本計画検討委員会専門部会第1回議事概要
 - ・資料3 篠山小学校木造校舎応急修理工事について
 - ・資料4 西脇小学校校舎整備着手までのスケジュール
 - ・資料5 アンケートについて
 - ・委員名簿
 - ・（委員から提出） 西脇小学校の改修履歴について
 - ・（委員から提出） 校舎に関する職員アンケート調査結果
 - ・（委員から提出） 高野口小学校の木造校舎改修（リフォーム）

◇議事要旨

1. 開会

2. 教育長あいさつ

3. 新委員紹介

PTAから選出の新委員として、近藤浩介委員から挨拶

4. 議事

（1）前回の議事録の確認について

事務局：資料1の説明及び情報の公開方法等について説明。

委員：報道関係者が前回に引き続き今日も1名来ておられる。報道を排除しろとは言わないが、公平な立場で知らしめてもらえるように配慮してもらいたい。以前、校舎建て替えについてのテレビ番組の放送もあったらしく、見た人は影響を受けるのではないか。

委員長：この会議は、方向性をいったんリセットした会議という認識で、皆さん共通理解されていると思う。報道については自由ではあるが、中立的な発信になることを期待している。

委員：ストーリーを作って報道されるのは不本意ということ。ゼロから考える場であるので、結論あ

第2回西脇小学校校舎基本計画検討委員会議録

りきで報道するようならやめてもらいたい。

委員： 報道の内容として次回委員会の日時と場所も流してもらえれば、私たちの確認のためにもなる。

委員長： どういう形で報道するかを事前に事務局に知らせてもらい、委員と共有しておくことができればいいと思う。

委員： 前回委員会で議題になった議事録に名前を書く件については、発言には責任を持つのが前提であると思うので記名でもいいと思う。委員は責任を持って堂々と発言すればいい。

委員長： 報道の内容は、事務局が簡単にまとめて後日報告してもらいたい。

委員： サンテレビでの放送があり私が映っていた。映像についても報告してほしい。

委員長： 映像についても、何らかの方法で報告するように。

(2) 第1回専門部会の報告について

事務局： 資料2により専門部会での議論について報告

委員長： 専門部会の委員は、平成24年度の調査には関わっておらず、第2回専門部会は事務局から示されたデータをもとに確認や質問などをした。

副委員長： 専門部会の目的は、現在の耐震診断の妥当性の検討なのか、建て替えないとしたときの安全性の検討なのか、どちらなのだろうか。

委員長： まだ明確になっていない。前回の専門部会では、保存するとした場合、問題点はあるもののそれを解決しながらの保存は可能だろうという結論をほぼ全員の方からいただいた。応急耐震補強は、ブレースのつけ方など技術的に難しいところもあるので、もう少し時間をかけて検討する必要がある。地盤の問題や柱の米松の強度についても話が及んだ。また、学校として使っていくときの法的な適合性についても検討していく必要がある。

副委員長： 耐震診断の結果を確認した。耐震化は妥当だと思っている。この教室もそうだが、教室2つ分をつなげて壁を取り払っているので、材料や性能が議論の焦点になる。材料によっては参考となる強度は示されており、地盤については調査が必要。このような検討をしながら、使い勝手の要望を可能な範囲で組み込んでいく。篠山小の応急地震補強については、外壁は改修することが決まっていたので大胆にブレースで補強した。一方で、残さないといけない部材は慎重に補強した。

委員長： 第1回専門部会では、ざっくばらんに問題点を指摘した。梁の組み方の話などは、図面を入手してからの検討に持ち越した。

委員： 残せるのか残せないのかが曖昧で分かりにくい。地震時の安全性、改修と建て替えにかかる費用など、基礎となる情報が必要。専門部会で議論された情報のうち、市民が知っておいた方がいいことを、周知して欲しい。

委員長： 議事録を作成しているので、事務局から後日お渡しするように。

委員： 残すのか残さないのかを決めないまま細かい議論をしても役に立たない。アンケートを早くしてはどうか。

委員長： アンケートは、色々な問題点を整理してから実施すべきで、情報のないまま好きか嫌いかを答えてもらうのが目的ではない。残すのかどうかという議論には、技術的、法規上の問題も整理が

第2回西脇小学校校舎基本計画検討委員会議録

必要。

委員： 議論が逆さまな感じがする。文化財側では、文化財としての価値があるかどうかを検討し、技術的な話が出てきたらその時に検討するということにした。市民へのアンケートも、そういうことで試してみてもどうか。ただし前回の委員会で示されていたアンケート案は問題があると思う。

委員長： 技術的な検討をした上でアンケートをしないと、市民も判断しようがないということになりかねない。構造や実用性の議論をちゃんとして、問題点の整理がまず必要。また文化財にするための議論は、一足飛びには行かないと思われる。

委員： 教育長はリセットした場と言ったが、前年度に出席していたのは数名。その時の考えは第一校舎を残して建て替えという流れだったが、一棟だけなら残す価値はないという専門家の判断だった。今回は専門家からの見解が全く異なる。一般の委員は素人なので、混乱してしまう。また、補強は可能という話だが、柱と梁以外は全てというなら、建て直しの方がいいのではないか。

委員長： グレーなどところが多く、結論を急ぐと誤解を招くので注意が必要だと思う。

副委員長： 文化財の考え方自体が、日常的に使いながら残すという方向に変わってきた。例えば土壁は消耗品であり、はがして塗り直すことそのものが文化的な知恵と言える。天井板、下見板も、小さな板に細分化してあるのは張り替えやすいようにするため。貴重な材料は残しつつ、交換をするということも重要なこと。また時代性もある。張弦梁といって、今は一般的になっているが、この校舎にも梁の横に鉄を渡してある。当時の技術としては先進的な工法で残す価値があると思う。一番重要なのは柱と梁で、あとは土壁の工法も重要なので残す必要があるかもしれない。壁の補強も、しっかり調べれば選別が可能。まずは価値観を共有するのが大切なことであり、話し合いの中で大事なものは何なのか、それを残すことはできるのかという検討をここですることになる。

委員： どういう価値観を残していくのが大事というところには共感できる。市内の旧来住家住宅は国登録有形文化財になり、一般公開されている。一方で、校舎というのは活用するインフラである。かつてあった講堂は体育には向かずセレモニーにだけ使われていたように、建物として価値があるというのと、教育インフラとしての利用価値は、一部トレードオフの関係にあると思う。今の小学生はよりグローバルに成長していくことが必要で、IT面の教育環境や図書室の蔵書の環境などで劣ることがあってはいけないと思う。古い建物としての価値は認めるが、教育インフラとしてはいい環境とは言えないと思う。

委員長： 教育現場としての実用性と、文化財としての価値、その両方を考慮して議論するのがこの場。どういう問題があるのかを調査して洗い出し、議論を進めていく。

委員： みんなが残したいと思うなら、文化財として残し、教育の場とは切り離して考える方法もある。

委員長： 0か1かではなく、その間にいろいろな結論があり、また使い続けていくことに意義があるので、結論を急ぐべきではない。

委員長： 資料「西脇小学校の改修履歴について」を説明

委員長： 国庫補助を受けて工事をした資料をもとに資料を作成した。設計者の内藤氏のご子息にお会いし、図面を入手した時に何点か確認した。材料には米松を使用しており状態はよい。建物の外装は、石綿プレートが段々に貼られている。換気口のところの斜めの部材もスレート。石綿プレー

第2回西脇小学校校舎基本計画検討委員会議録

トは、当時、新しく優れた素材として採用されたもので、そのため建物の保存状態もいい。改修についてや、取り壊しについても、安全上の配慮についてはマニュアル化されており、ノンアスベスト材料に置き換えることで保存は可能だと思われる。事実を共有しておくので、冷静に受け止めてもらいたい。現在使い続けることに問題はない。

委員： 改修する際には撤去する必要があるということで、外観は多少なりとも変化するということが。

委員長： その通り、多少外観は変わるかもしれないが、何に価値を置くかという議論もある。

委員： 維持管理費と新築の費用について、参考に情報が欲しい。

委員長： 木造に限らず維持管理費はかかる。しかも、平成の大改造といっても大きな改修は行われておらず、抜本的な改修はこれから初めて行うことになるので、それなりの費用がかかる可能性がある。費用はそう簡単には積算できないので、検討に時間をいただきたい。

(3) 現状の課題

委員： 資料「校舎に関する職員アンケート調査結果」を用いながら、校舎の教育環境としての現状について説明

委員： 車椅子の児童が本校に在籍時、その子が学ぶ校舎に順次スロープを設置し、また教室の位置は2階を避けて1階に設定して対応した。ずっと1階の教室になるのを残念がる子どももいた。命を守ることと、すべての子どもに平等に教育を受けさせる権利を与えることは、当然のこと。エレベーターをつけるなどバリアフリー化を考えてみても、解決できない問題は残る。

職員に対し、アンケート調査を行った結果を参考資料として配布する。最も多かったのは、「木造校舎第1校舎のみを残し、残りを新築する」で80%だった。ではどう環境の改善が必要かについては、第1校舎のみ残す場合、地域と学校の交流を促進するスペースとして活用する意見が多く、ほかに図書館の出張所や、校内での活用型の案としてオーケストラの練習場所などの意見があった。3棟とも残し校舎の改修をする場合でも、全員がトイレのリニューアルを要望している。ほかに、エレベーターの設置や下駄箱を室内に設置、学年みんなが集まれるスペースを設ける、音や寒さ対策なども挙げられた。2階にいる児童は気を遣って生活しているが、1階に響く音はかなり大きい。

委員長： 具体的な検討課題として参考にしていく。シャワー室というのはどこに設置するのか。

委員： 職員の更衣室と、保健室に必要。

委員： 照度については蛍光灯の増設で対応できると思われるが、水回りが少ないのは衛生上の基準を満たさず致命的だと思う。吹き抜けなので不審者対策も難しいところがあり、これらの点も検討課題になる。

(4) 篠山小学校の応急補強について

事務局：資料3により説明

委員長： 専門部会としては、校舎の状態から、応急補強をやるべきだという意見であった。できるだけ応急補強をする方向で議論を進めるが、ブレースをうまく設置できるかなど技術的に検討が必要

第2回西脇小学校校舎基本計画検討委員会議録

であるため、スケジュールとの兼ね合いも考慮しながら、専門部会で煮詰めていきたい。事例の篠山小は、立地が城内なので、使い続けることが前提となっていた。

副委員長：篠山小学校の議論でも途中で方向性が変わり、地盤が悪いので取り壊しという方向から、新技術を使って比較的安価に地盤を改良し安全性を満たすということになった。技術は向上してきているので、使っている人の感想やまちの人がどう考えているのかなどが大切になってくる。いろいろな技術を学ぶことも必要だと思う。

委員長：内藤氏からの聞き取りによると、この校舎は切土の上に建てられているようなので、地盤の状態はよさそうということを確認しておく。ただしボーリング調査はいずれ必要だろう。

(5) 今後のスケジュールについて

事務局：資料4により説明

事務局：早ければ27年の初めから基本設計にかかることができる。そのためには今年11月から12頃には予算要望が必要。補正予算という可能性もある。

委員長：最短の期間ということであれば、9月くらいには意見をまとめる必要がある。衛生上の問題など対策を急ぐ必要もあるので、議論を進めていきたい。

委員：予算の要望と編成とはどう違うのか。

事務局：要望というのは、庁内の予算を担当する部局に要望を提出するということ。

委員：耐震補強をするとどの程度の強度になるのだろうか、具体的な数字は挙げられるのか。

副委員長：建築基準法に基づく耐震補強工事により、新しく建てた建物と同じ程度の強度を確保するということ。震度でいうと、6強から7にかけてということになっている。建物が壊れないというわけではなく、建物の倒壊によって死につながるようなことがないということ。

委員長：防災マップによれば、市内で想定される震度は6弱である。

(6) アンケートについて

事務局：資料5により説明

委員：文部科学省のホームページで、ワークショップの紹介があった。3回開催され、その合間に事例見学会や関係者へのヒアリングなどが行われている。その中で共感したことは、こんなふうに育ってほしい、だからこんな建物になってほしい、という考え方のところ。

委員長：アンケートは前回の委員会でも実施はした方がいいと思うという意見だった。次回にはアンケート案を提案することにしたい。

(7) その他

委員長：事例の見学会について提案

委員長：いい事例、よくない事例を見学する方がいいと思う。いい例としては八上小学校、日土小学校など。使い続けていく空間として、今ひとつと思われるのは近江八幡の旧白雲小学校など。少し遠いが高野口小学校もいい事例であり、自費で行くという方法もある。

第2回西脇小学校校舎基本計画検討委員会議録

- 委員： 西脇小に似ている高野口小学校に視察に行き、快適な教育環境になっており勉強になった。
- 委員長： 高野口小学校は、平屋というところが西脇小学校と大きく異なるが。
- 委員： 改修することが目的の視察に思える。新築も視察してはどうか。
- 委員長： 必要があれば新築の視察もあり得る。ただし新築は設計者によって結果が大きく異なるので、視察に行ってもそのとおりになるとは限らないところには注意が必要。
- 副委員長： オープンスペースを使っている校舎が県内にあれば新築の参考になるだろう。
- 委員長： 出石の弘道小学校はそういう形式で建てられている。ただしオープンスペースがある校舎は、先生方の同意が大切になるので注意が必要。
- 委員： 市内の楠丘小学校や比延小学校もオープンスペースを有しており、内装は木を使用している。
- 委員長： ご存知ない方も多いようなので、見に行く必要もあるかもしれない。
- 委員： 楠丘小は平成5年に竣工、八千代南小、比延小もオープンスペースを持っており、廊下は広めに取ってある。全体が木でなくても、教室の内装が木質なら木の温かみは感じられる。緊急時の避難をする際の安全面も考慮が必要であると思う。
- 委員： 一番新しい施設としては、西脇南中を視察するのが適切だと思う。
- 委員長： 開始の1時間前に集合して、現地を見学することにする。
- 委員： 情報の発信は大切なので、記録の公開や専門的な情報をホームページや広報にしわきやフェイスブックページなどでしっかりと発信してもらいたい。
- 委員長： 広報の仕方については速やかに検討を。
- 事務局： 2回目以降はなるべく早く議事録要旨を作成し、委員に個別に確認してもらい、ホームページにアップしていく。
- 委員長： 第1回目の議事録要旨は、1週間以内に委員から返事がなければ、議事録案に異議なしと了解したことにする。見学会、委員会については、準備が整ったものから実施する。見学会の候補は高野口小学校ともう一箇所くらいをみなさんにメールなどで提案する。
- 事務局： 基本は土日を考えている。
- 委員： 会議資料は前もって送ってもらいたい。
- 事務局： 開催通知に同封できるよう努める。
- 事務局： 次回委員会の日程調整は、メールや電話を通して行う。

以上